

人は楽しむために生まれてきた ウイルスに負けない 「からだ」づくり

たまごビル
院長 石垣 邦彦



〒581-0061
大阪府八尾市春日町1-4-4
電話072(991)3398
FAX072(991)4498
ホームページアドレス
http://www.tamagobl.com/

日本国民への提言

たまご理論で病気のしくみを考える

74

感染しやすい 重症化しやすい

表2

からだ<ウイルス

- ①「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらかない」状態
- ②「上腹部がかたい」状態
- ③「呼吸・循環・自律神経・人体力学・内臓全般の動き」が悪い状態
- ④「総合的免疫力」がない状態
- ⑤「自然免疫・獲得免疫」がはたらかない状態
- ⑥「自然治癒力」がない状態

表1

重症化し、死に至る人に共通する特徴=上腹部がかたい

- ①高齢者で基礎疾患のある人
- ②肥満の人
- ③ヘビースモーカー
- ④免疫力を低下させやすくなる人(解熱剤・ステロイド・免疫抑制剤・タミフル・ゾフルーザ・ARB・カルシウム拮抗剤・睡眠薬・精神安定剤・抗がん剤・コレステロール低下剤・PPI等)
- ⑤手術後の人
- ⑥睡眠不足・過大なストレス・食べすぎ等の人
- ⑦病名が付かなくとも、内臓の動きの弱い人

表3

ROB理論にもとづく

- ① ROB治療(内臓調整)
 - ② 総合的免疫を生む実技
 - 1 三叉神経・迷走神経反射
 - 2 手・足Aβ末梢神経刺激法
 - 3 静脈還流体操
 - ③ 日常生活処方
- 特に表1の①~⑦に対応

表4

からだ>ウイルス

- ①「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態
- ②「上腹部がやわらかい」状態
- ③「呼吸・循環・自律神経・人体力学・内臓全般の動き」が良い状態
- ④「総合的免疫力」がある状態
- ⑤「自然免疫・獲得免疫」がよく「はたらく」状態
- ⑥「自然治癒力」がある状態

重症化しない 感染しても無症状・軽症 感染しにくい

日本の国民一人ひとりが、自らの「からだ」の「しくみ」を生かすことで日本を再生する

人類よ、目覚めよ 日本・世界での 新型コロナウイルス対策について

令和3年11月7日(日)大阪府医師会館で第53回医療近代化シンポジウムが開かれました。主題「COVID-19」演題・講師

- ①「COVID-19診療のこれまでとこれから」地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所 理事長 朝野和典
- ②「新型コロナウイルスに対する防御免疫とは」大阪大学免疫学フロンティア研究センター 招へい教授/大阪大学 名誉教授 宮坂昌之
- ③「新型コロナウイルスに対するワクチン開発の現状と課題」大阪大学大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学教授 森下竜一
- ④「コロナ専門病院の運営と課題」大阪市立十三市民病院院長 西口幸雄

今回は、日本の免疫学の第一人者・宮坂昌之教授と十三市民病院 西口幸雄院長の講演内容について的を射し、ROB理論にもとづく新たな提案をしてゆきます。それぞれ、ご専門の分野でご活躍されている立派な方々です。

【I 二人の講演から生まれる問題点と解決の糸口】
宮坂先生は、免疫学の第一人者で分子生物学に基づいたデータを駆使してコロナ対策を述べられました。論理的で非常に分かりやすい講演でした。しかし新型コロナウイルスに対する現状は、他の講師の方々を含めてまだまだ不確かです。

そのため、大阪府医師会会場でわたしは、宮坂先生が昨年発言されたことの事実確認をさせていただきました。

以下の質問の内容は、本紙2020年7月15日号にもすでに掲載したものです(たまごビルHP河内新聞欄で確認できます。参照ください)

①文芸春秋2020年8月号P330で『ワクチンや治療薬がなくとも個人レベルでできることもあります。「自然免疫」をフル活用するのです。それには体調を整えることが一番です』

②NHKBS1『山中伸弥が聞く新型コロナ』で「自然免疫がしっかりしていれば、獲得免疫のお世話にならずにウイルスを撃退できてしまう人もいるのか

もしれない」
また、「自然免疫が強い方は、その後抗原(ウイルスなど)が一定以上入って来ると獲得免疫も動きやすくなる。なぜかという獲得免疫というのは自然免疫がうまく動いて初めて獲得免疫が動くので、自然免疫の強い方は獲得免疫も非常に起こりやすい。自然免疫がしっかりしている人は通常、獲得免疫もしっかりしているのだからに

くいははかりにくいのかと思います」と宮坂先生は述べておられますが、間違いのないですか。と、わたしは確認を取りました。宮坂先生は、そうです。同意されました。ということは、次の流れが明快になります。く1「からだ」がととのう→自然免疫がフル回転する→獲得免疫も良く働く→コロナウイルスにかかりにくい

「からだ」をととのえる方法は、上部の図式表3がその内容です。次に、西口幸雄院長が総合病院からコロナ専門病院に変わってからの困難な問題を種々話されました。風評被害からスタッフの離職等多岐にわたります。しかし、西口先生の持っている「すなお」な人柄と「明るさ」で乗り越えてこられました。

ただ、いろいろ問題があるなかでもく2「医師や看護師のモチベーション対策が最も深刻な問題です。いまだに難しい問題だと思っています」と心情的に吐露されました。なんとか、解決させていってほしいとの念が、わたしにふつふつ湧きおこってきました。

【II モチベーションを高めるための基本】

それには、より確かな新型コロナウイルス感染予防と重症化予防。そしてそのことに貢献できる医師と看護師のありかたが必要だと。

感染予防と重症化しない方法については、本紙10月15日号で、ROB理論に基づく対策を詳しく述べました。今回も本紙上部の図式をご参照ください。く1「からだ」がととのう→自然免疫がフル回転する→獲得免疫も良く働く→コロナウイルスにかかりにくい。これが感染予防と重症化予防のポイントです。ROB理論で「からだ」をととのえれば表4の状態が生まれます。

さて、それでは西口院長の大きな悩みであるく2「医師や看護師のモチベーション対策が最も深刻な問題です。いまだに難しい問題だと思っています」についてはどう解決すればいいのでしょうか。感染予防と重症化予防に、医師・看護師はどう関わればいいのか。

例えば十三市民病院での治療については、当然医師と看護師が主体です。主役は医師と看護師です。その両者のモチベーションが落ちるとはどういうことでしょうか。

【III 川島みどり先生の提案】

ここでナイチンゲール記章受賞者・90歳にもかかわらずウェアでコロナ対策を研究されている川島みどり先生の提案を聞いてみましょう。要約します。

①根本的な問題
感染防止のため、コロナを寄せ付けなくておこうという新生活様式=「距離を保ち」「向き合わず」「触

れず、話さず」は、看護の真価を発揮するために「そばにいて」「見つめ、よく聞き」「触れる」とは真逆のこととなり、また感染の不安が常にあります。

そのため感染防止対策を講じながらの直接ケアのありようを探る必要がある。

②ゴールの見えない状況と達成感のなさで疲労困憊に。看護の立場から薬に代わる方法はないか考える。

③自然治癒力を高めるケア
自然の回復過程に働きかける。人工呼吸器・エクトモと並行して伏臥位・熱布バックケアの併用。

④医療崩壊を防ぐには看護の力も大事

【IV 感染・重症化を予防するROB理論】

次に上部の図式をご覧ください。表1は、重症化し死に至る人の特徴=上腹部がかたい。表3はROB理論にもとづく、ROB治療・総合的免疫を生む実技・日常生活処方を行うことにより表4の状態が生まれる。

「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態となり
=「上腹部がやわらかい」状態
=「呼吸・循環・自律神経・人体力学・内臓全般の動き」が良くなり
=「総合的免疫力」がある状態(現代の細分化された免疫学の対極にある具体的な考え方)
=「自然免疫・獲得免疫」がよく「はたらく」状態
=自然治癒力が活性化した状態

となってきます。そうすると右端にある結果が生まれます。感染しにくい・感染しても無症状・重症化しないこととなります。

上記を勘案して提案をしてゆきます。現代科学・医学的なアプローチは非常に大事なことです。また、各分野の多くの方々のためまい努力と貢献には感謝する以外ありません。

石垣クリニックでは、ワクチン接種に際しスリ手帳を持参していただき、病気の関連をチェックしてゆきます。多剤併用の高齢者があまりにも多いからです。待合室では、

大内尉義 元日本老年学会理事長出演のNHKクローズアップ現代「見逃される高齢者のクスの副作用」を放映し啓蒙に努めています。

副反応を防ぐためです。5月から現在までに約8000名にワクチン接種をおこない、2回目接種のあくる日にはすべての人に電話で安全確認をしています。また、PCR検査も自院で行っています。

しかしながら、3年11月7日の「第53回医療近代化シンポジウム」においてもなぜ、流行するのか。なぜ、極端に感染が少なくなっ

ているのか。今後、どうなっていくのか。定かではありません。

また、遺伝子操作による未来にわたる副作用については明らかではありません。新型コロナウイルス対策としてのクスの副作用等も考慮する必要があります。

それではどうすればいいのでしょうか。そうです。現代医学の長所を活用し、短所を含み、しかるべき対応をすればいいのです。

今日の結論

①まず、コロナ感染において主人公である人類の「からだ」をととのえること。

そうすれば、宮坂先生が指摘されるようにコロナにかかりにくくなる。

②医師や看護師のモチベーションを上げるには、医師・看護師が元気になり、その行動が明らかな効果と結果を出すようにすることが大事。

③介護・死の看取りをすればよく分かることだが、対象の患者さんばかりでなく介護する側・看取る側の「からだ」をととのえようと非常にスムーズに事が運ぶ。良い結果が出る。

その意味で医師・看護師の「からだ」をととのえることが非常に大事なことになる。

④まず、医師・看護師自らの「からだ」をととのえることが基本。

表3の三叉神経迷走神経反射～静脈還流体操を行えば、表4の状態に「からだ」が元気になり、必ず持続性・集力・発想力・大局観ができる。モチベーションが明らかに高くなる。そのため、患者への対応がよりの確になる。良い結果が出る。

⑤寝たままの患者に医師・看護師が、三叉神経・迷走神経反射～静脈還流体操を施療できる。その場で結果が出る。その結果を医師・看護師が自らの「手」で、「からだ」で感知できる。腑に落ちる。

もちろん、座っていても寝ていても患者自身もできる。寝ていても筋力・呼吸・循環等は落ちない。

患者・医師・看護師・理学療法士・介護士等も腑に落ちる。同じ「からだ」の「しくみ」をもっているから。

⑥そのうえで、現代医学のすばらしさを生かしつつ、自然治癒力を高めるケアとして伏臥位・バックアップケア等も生かしてゆけばさらに良い効果がでる。

医師・看護師・他のコメディカルのモチベーションは必ず上がってきます。さらに重症化を防ぐことができます。

十三市民病院のスタッフの方々全員に、この提案をさせていただきます。コロナ専門病院に変わってからの健康、ありがとうございます。今後もよろしくお願いたします。

大阪万博に基本理念を提案する

25

電話 山口レコード 院長 河内家 水丸

河内音頭記念館

〒581-0003 八尾市本町7丁目12-24
ファミリーロード商店街内
☎(072)995-1555
FAX(072)995-1555

お近くにお越しの際は、是非お立ち寄り下さい

●館長 河内家水丸監修展示イベント開催中●

YAO CITY NET

レンタサイクル貸出中

八尾シティネット株式会社
http://www.yao-citynet.co.jp

Très bien, Inc.
multi-food-produce

天 山

冠婚葬祭・各種パーティーのお料理
企画運営を承っております。

大阪府・奈良県・和歌山県・兵庫県指定業者
大阪府・奈良県・和歌山県・兵庫県認定業者

あなたの街の葬儀社

八光殿

HAKKODEN

社葬、それは承継と決意の場です。

「創業者の人生=会社の歴史」

社会的信頼・社内の結束・会社発展のため、
中小企業こそ社葬の運営が大切です。

社葬の企画・運営は八光殿にお任せ下さい。

☎0120-39-8510

第4期最終分譲開始 大型公園墓地

八尾 普泉寺霊園

完全バリアフリー設計 大駐車場完備
八尾市福栄町3丁目5番地

お問い合わせは
☎072-996-1111 普泉寺霊園

検索